

平成21年度 第5回全国健康保険協会宮城支部評議会（議事概要）

開催日	平成21年12月16日（水） 10:00～12:00
議題	<p>1. 保険料率について</p> <p>2. 平成22年度宮城支部事業計画について</p> <p>3. その他</p>
議事概要 (主な意見等)	<p>◆事務局より、各議題について、資料に基づき説明をする。</p> <p>◆各評議員より各議題内容に関して意見を頂いた。</p> <p>1. 保険料率について (主な意見等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国庫補助率について、12月2日に本部に提出した宮城支部意見の通り、法律本則上に戻し、最低でも20%とすることが重要である。 ・母体となっている保険者によって保険料が変わってしまうのは相互扶助の観点から見ても納得がいかない。国庫補助の増額を強く願います。 ・経済団体が連名で国庫補助率の引き上げについて要望をしたこと。また、支部長みずから地元国会議員を訪問し、国庫補助率引き上げのお願いを実施した点を評価する。 ・4500億円の赤字について、料率の引き上げが急激なものとならないように複数年度、できれば5年間で解消するのが望ましい。 ・改定時期について、9月改定だと保険料率への影響が大きすぎることから、3月改定4月実施が望ましい。ただし、広報等周知期間の問題もあり、遅くとも12月中に国庫補助率決定をするよう国に対し、再度強く要請していただきたい。 ・宮城支部評議会としても今後の国の動きに注目し、保険料率の議論を進めていきたい。 <p>【回答】</p> <p>保険料率に関わる国庫補助率のアップについては小林理事長を中心に政府及び各方面に働きかけを行っており、また、各支部も一体となり引き上げの要請を展開している最中である。</p> <p>政府与党の動きを見ると今週が大きな山場を迎えると思われるが、引き続き努力をしていきたい。</p> <p>また、今回の保険料率を検討するなかで、協会けんぽの保険財政上の赤字については構造的な問題であると受け止めている。そういう観点から、一過性の議論ではなく、今後更に時間をかけて議論していく必要がある。</p> <p>尚、12月26日に本部において支部長会議が開催され、国庫補助率等、直近の動向及び今後のスケジュールが示される予定である。</p>

2. 平成22年度宮城支部事業計画について

(主な意見等)

- ・協会けんぽの活動を加入者及び事業主に知ってもらうためにも、地元メディアを活用してはどうか。
- ・ジェネリック医薬品について、患者の意見というよりは医師による判断が強い。金額が高いほうが効くといったイメージがある。医師の認識を深め、ジェネリック医薬品の使用促進をすよう働きかけることも重要だ。三師会への要望を強くお願いしたい。
- ・保健師の獲得については、全力を挙げてもらいたい。

- ・平成22年度宮城支部事業計画について、承認する。

今年度以上に盛り沢山の事業計画だが、保険者機能を十分に発揮し、ジェネリック医薬品の使用促進をはじめ関係方面への情報発信や今年度以上の加入者へのサービスの向上、また、保健指導のアウトソーシングなど健診・保健指導のさらなる向上を目指して、なお一層、宮城支部らしさを出して、事業計画を実施するようお願いする。宮城支部評議会としても、平成22年度の事業について、今後もより一層強く見守っていききたい。

3. その他

特に意見なし

特記事項

- | |
|--------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none">・次回の日程については、平成22年1月19日(火)10:00から開催することとした。 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------|